

が自分の心で分かっているいき、自分というものが、はっきりと見えてきます。

そうすれば、自分の中の様々な欲、いわゆる煩惱という実体も見えてくるということなのです。

だから、「心を見る」ということは、凄いいことなのです。

心を見ていけば、煩惱は断ち切るものではなくて、自分の中で解き放していくものだということが分かってくるからです。

煩惱は、いわゆる肉体を持った私達の本能です。

しかし、本能のなすがままでは、社会が成り立ちません。

社会が成り立たないということは、私達は、心を見る場を得られ

ないということですから、決してそういうふうにはなっていない。ま

ん。
そこで、私達は、他の生物いきものとは違って、理性というものも同時に備えています。

煩惱を抱えた人間は、理性を上手にコントロールして、一方では、自らの学習能力を高めながら、時の変遷へんせんとともに、複雑な社会を作っています。

その中で、「心を見る」ことをやっていくというのが、私達人間の本来の姿なのです。

しかし、何度も言うように、人間は愚かな生物いきものです。

実際には、諸刃もろはの剣つるぎを自分に用意しておきながら、その剣つるぎでもつ

て自分を殺してきたのです。

自分を殺す剣つるぎを自分で用意する、見方によっては、愚かです。そして、それほど覚悟というか思いを込めて、私達は、生まれてきたと見ていけば、私達人間というものは、凄いいと思いませんか。

ひとつ間違えれば、死です。

自分と刺し違える覚悟がなければ、本物は見えてこない、私は今、そのように感じています。

人間の煩惱、欲のエネルギーが、様々なドラマを生み出していくことは、どなたもご存じのはずです。

そのエネルギーの渦の中に巻き込まれて、幾度となく失敗してきた人間が、今度こそはと、その中に身を置きながら、心を見ること

をやっつけていこうとしたのが、今の時間なのです。

過去には、心を見ることが分からなかったから、ただ煩惱を滅却めつじやくすれば、悟りが得られるなどという間違った風潮に流される人も出てきました。

文献では、確かに高僧、名僧、悟った人、愛の人となっていて、果たして、その人達の中から、本当に煩惱というものが消え去っていったのでしょうか。

その人達は、ご自分のことをどのように感じておられたのでしょうか。

そして、今、その人達は、どのように存在しておられると思いますか。

永遠の命、永遠の自分を自分だと知って、その時の肉体を捨てたわけではないと思います。

その人達と実際に出会わなくても、ふっと思いを向ければ、自分の心で感じられる、その能力が、私達には、最初から備わっていると言いました。

文献に頼らずに、また人から聞いた話を鵜呑みにしないで、自分の心で感じることを、あなたもやっていきませんか。

しかし、早とちりは禁物です。

自分達に備わっているものを研ぎ澄ます、それにはまず、自分の心を見ることを始めていかなければならないのです。

自分の心を見始めることが、自分に備わっているものを研ぎ澄ますことに繋がっていきます。

本来、自分達が持ってきたものを、本当の意味で正しい方向に使っていかなければ、それは、諸刃の剣だから、自らを殺していくことも往々にしてあることを知っていかなければなりません。